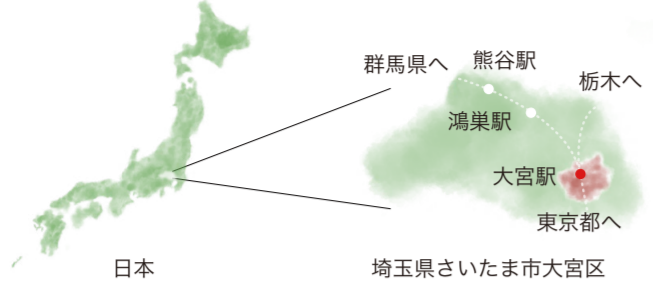


みんなの参道 × みまもる福祉

00 敷地分析—埼玉県さいたま市大宮区

提案敷地は、埼玉県の経済や交通の中枢を担うさいたま市である。電車で20分と東京へのアクセスも良く、自然も多いさいたま市は、「住みたい街ランキング2022」で大宮3位、浦和5位であり、人気の街である。

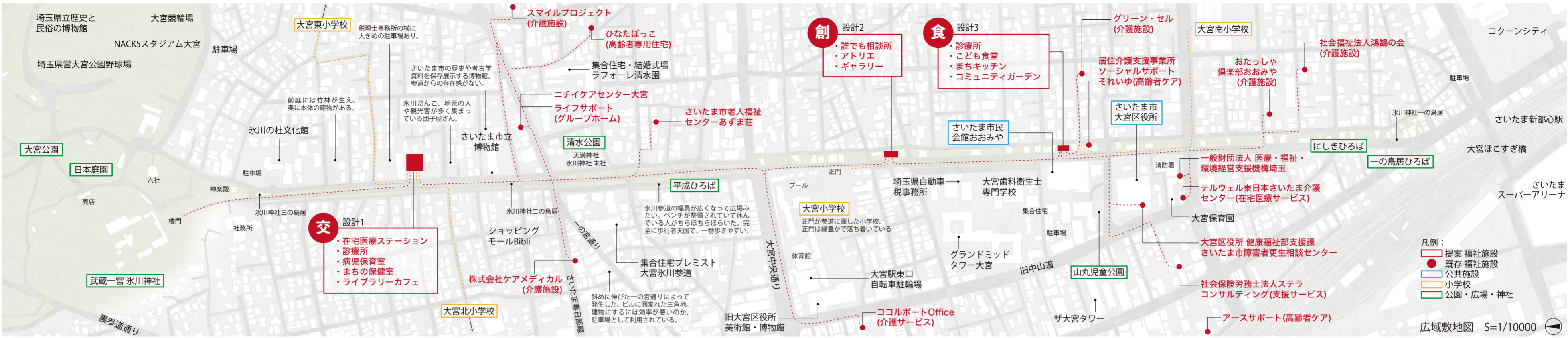


01 地域の再生は道からはじまる—大宮氷川参道は「みんなの道」

大宮氷川神社の参道は、南北に2kmのびる古くからの街道です。ケヤキの木を中心に、シイ、エノキ、スギなど約40種の高木が約650本植えられています。大宮氷川神社では春夏秋冬にそれぞれのお祭りが行われ、毎年多くの地域住民によって盛り上げられています。毎年8月1〜2日に渡り行われる中山道まつりは、大宮

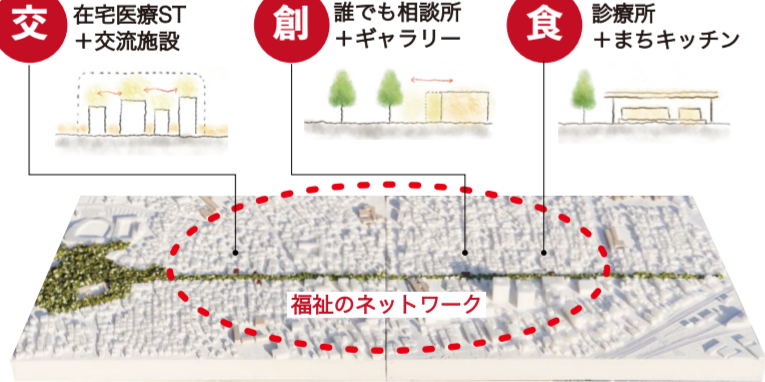
02 福祉施設をオープンに—参道全体で「みまもる福祉」

氷川参道周辺には、多くの福祉施設があります。事業形態、規模、患者の状態など、各施設異なっているため、連携して使われることは少ない現状にあります。そこで氷川参道沿いに様々な機能を複合した福祉施設を分散し氷川参道でつなぐ提案します。福祉機能としては、在宅医療ステーション、診療所、病児保育所、まちの保健室、誰でも相談所、複合する機能としては、ライブラリーカフェ、アトリエ、ギャラリー、こども食堂、まちキッチン、コミュニティガーデンなどを設置します。施設をつなぐ氷川参道を歩くことで患者さんの健康促進につながったり、氷川参道に人が増えることで地域で小学生を見守り、地域の防犯にもなります。このように地域全体で「みまもる福祉」を取り組みます。



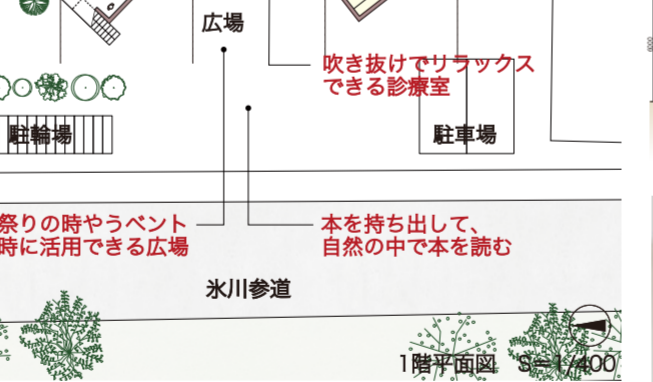
交 在宅医療ステーション+診療所+病児保育室+まちの保健室+ライブラリーカフェ

氷川参道に分散した福祉施設の拠点となる在宅医療ステーションの複合施設を設計します。在宅医療は地域住民や患者さん、患者さんの家族、他分野の専門家とも協同しながら地域に根付いていくべきです。そのため、在宅医療STの他に、患者さんや誰でも利用できる「みんなの診療所」、子育て世代が困った時に利用する「病児保育室」、地域の小学生も利用できる「まちの保健室」、自由に本を読んだり勉強ができる「ライブラリー」、患者さんや地域住民の目的地となる「カフェ」といった居場所を作ります。通常の在宅医療STや診療所はまちに対して閉じていますが、この施設では様々な機能を複合することで、今まで関わることが少なかった人々が交流し、患者さんにとっても生きがいに繋がったり、同じ悩みをもつ子育て世代が支えあったり、小学生の放課後の居場所つくりや防犯対策になったり、地域全体を見守り合う仕組みを目指します。



創 誰でも相談所+アトリエ+ギャラリー

在宅医療STのアネックス1として、いつでも誰でも相談できる「誰でも相談所」、気軽に創作活動ができる「アトリエ」、患者さんや小学生が作ったものを展示できる「ギャラリー」といった創作のための居場所を作ります。在宅医療を受けている患者さんが、趣味のために外出し氷川参道を散歩することで、健康につながることも期待できます。患者さんや地域の小学生が集まったものを作ったり、絵を書いたり、それらを自由に展示したりします。



食 診療所+こども食堂+まちキッチン+コミュニティガーデン

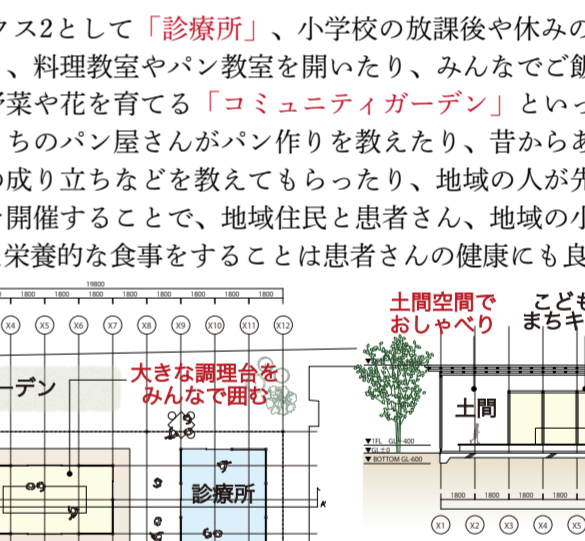
在宅医療STのアネックス2として「診療所」、小学校の放課後や休みの日にみんなでご飯を食べる「こども食堂」、料理教室やパン教室を開いたり、みんなでご飯を作ったりする「まちキッチン」、畑で野菜や花を育てる「コミュニティガーデン」といった「食」を中心とした場所を作ります。まちのパン屋さんや醤油屋さんに教えたり、昔からある醤油屋さんに大豆を使った料理や醤油の成り立ちなどを教えてもらったり、地域の人が先生となり、定期的に食育ワークショップを開催することで、地域住民と患者さん、地域の小学生が「食」を通してつながります。また栄養的な食事をすることは患者さんの健康にも良い影響があります。



交 在宅医療ST+交流施設



創 誰でも相談所+アトリエ+ギャラリー



食 診療所+こども食堂+まちキッチン+コミュニティガーデン

